

経営する水道は日本の「宝」だ!

が宣言! 「東京は スで世界を目指す」



東京・お茶の水の「水運用センター」(写真上)と板橋区の三國浄水場を視察する猪瀬氏

作家で東京都副知事猪瀬直樹氏(63)は「いま、日本に必要なのは成長戦略だ」と言い切る。永田町はまたぞろ政局だが、東京都は「水ビジネス」での海外進出に動き始めた。

*

鳩山由紀夫さんの辞め方は、細川護熙さんの政権投げ出しを思い出させる。奪い取った地位ではないからだろう。

平成の22年間に、小泉純一郎さんの5年半を除くと、首相

の在任期間の平均は1年強でしかない。これではとても国家戦略を担えるものではない。

世界市場で環境政策を押し進めるオバマ大統領を見ればわかるように、現代の国家指導者は、国際経済の中でのセールスマンの役割も果たさなければならぬ。にもかかわらず、こうもコロコロ首相が代わっていつかは、日本を信用しろというほうが無理なのではないか。道路公団民営化をやり遂げ、石原慎太郎知事に突然、東京の副知事を頼まれて、3年間、奮闘してはつきりわかったのが「官にはお宝が眠っている」ということだ。磨き方次第で輝きを放てる国民の財産は多くある。だが、短命政権が続くがゆ

えに、そういう部分に光が当てられていない。

日本にとって「宝」の一つが自治体経営の水道だ。

実は蛇口から出る水を直接飲める国は世界でたった11か国しかないことはあまり知られていない(※)。なかでも東京の水道技術は世界一だ。ロンドンなど先進国の大都市でも漏水率は10〜20%ぐらいが当たり前だが、東京はわずか3%。また、料金徴収率は99.9%に達する。

道路公団は高速道路という磨けば光る宝を無駄に使っていたから民営化を提案して効率を高めた。東京水道の維持管理システムは充分に国際市場でビジネスとして展開できる。僕は4月から、都庁で「海外事業調査研究会」の旗振り役として、「チーム水ジャパン」をつくるべく、真剣に取り組んでいる。

世界の必要量は、ユネスコの推計によると、2025年に00年比で3割増える。中心はアジア、中東、アフリカ。これを賄う水ビジネス

市場は現在年60兆円規模だ。将来は100兆円に届くとされる。

途上国では「水と安全はタダ」ではない。実際、世界には「水メジャー」と呼ばれる仏ヴェオリア、仏スエズ、英テムズ、といった企業があり、上下水道の整備で数千億円から2兆円規模の売上高を誇っている。ヴェオリアは既に日本での受注実績も持っている。千葉県我孫子市の手賀沼の下水処理施設の運営を09年4月から3年間の契約、約50億円で競り落とした。隣には世界一の技術を持つ東京水道があるのに、なんとも釈然としない話じゃないか。

日本の安全保障に 寄与する

先日、東京都水道局の現場を回った。最後に、お茶の水にある「水運用センター」を見た。そこは、NASAのようでもあり、新幹線の指令室のようでもある。

縦2・2層、横12層の巨

※日本以外で水道水を飲めるのは、オーストラリア(シドニー)、アメリカ(ハワイ、サンフランシスコ、デトロイト、アトランタ)、スイス(全国)、フィンランド(ヘルシンキ)、スウェーデン(ストックホルム)、デンマーク(コペンハーゲン)、カナダ(バンクーバー)、オーストリア(ウィーン)、フランス(全国)、ニュージーランド(全国)